

第29回ユニバーシアード競技大会

第29回ユニバーシアード競技大会(8月19～30日、台北市)に、専大からは現役・卒業生合わせて6選手が出場。卓球競技で安藤みなみ(商3・慶誠高)、鈴木李茄さん(平29商)が女子団体で銀メダル、女子バスケットボール競技で小笠原美奈(経営2・明星学園高)、村山翠さん(平28経営)が銀メダルを獲得するなど活躍した。

卓球女子団体・混複 安藤みなみ

銀

バスケットボール女子 小笠原美奈

都合により写真を掲載できません。
紙面をご覧ください。

女子ダブルスで3位の安藤(左)と鈴木さん=写真④
50年ぶりに銀メダルを獲得した女子バスケットボール代表。後列右から4人目が小笠原、同左端が村山さん=写真⑤



卓球

女子複は銅

安藤は卓球の女子団体準優勝に貢献したほか、鈴木さんとの女子ダブルスで銅メダル、吉村和弘選手(愛知工業大)との混合ダブルスでも銀メダルと世界の舞台で成績を残した。

鈴木さんとのペアといえば、専大の団体戦の柱として全国トップレベル

の活躍で、チームをけん引していた姿が記憶に新しい。安藤は、鈴木さんとの事前練習について「久しぶりに組んだとは思えないほど調子が良かった」と振り返り、自信を持って大会に臨んだ。大会では準決勝で惜しくも敗れたものの、力を出し切り表彰台に上った。

女子シングルスでは「世界との力の差を感じた」と話しながらも、日本代表として活躍した。

バスケットボール

バスケットボール競技(女子)の日本代表チームに選ばれた小笠原とキャプテンを務めた村山さん

は、日本の50年ぶりの銀メダル獲得に貢献した。日本は準決勝まで負けなしの5連勝。カナダやロシアといった強豪チームにも大差をつけて勝利し、決勝のオーストラリア戦に進んだ。決勝では、平均身長で約10センチも差がある大きい相手に対し、速さやスタミナで対抗するも78-85で惜しくも敗れた。

小笠原は「オフフェンスが思うように機能しなかった。それでも相手の高さには屈することなく、互角の戦いをするのができたのは、日本の特徴でもある速さを生かし、ディフェンスが通じたから」と決勝を振り返った。

No. 378

専大スポーツ

大会結果 予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からアクセス)でご確認ください。
専大スポーツ編集部 web(http://sensupo.web.fc2.com/) facebook(大会結果を配信)もあります。

男子 総合優勝 女子は準優勝

全日本学生ローラースケート選手権10月6～8日、長野市・千曲川リバーフロントスポーツガーデン



男女合わせて多くの賞状を手にする部員たち

スピードとホッケーの

2部門が行われ、順位による得点で総合成績が決まる。専大は男子がスピード部門、ホッケー部門ともに優勝。女子がスピード部門準優勝、ホッケー部門で準優勝。男子は総合優勝(4年ぶり42回目)、女子は総合で準優勝となった。

ホッケー部門では昨年末の1回戦敗退となった男子が雪辱を果たした。準決勝、今年一度も勝てなかった立教大に延長戦の末、勝利を収めると良い流れのまま決勝へ。決勝の相手は東洋

専大は10月12日(神宮球場)、青学大3回戦に0対5で敗れた。この結果、勝ち点2のまま1部復帰の道が途絶えた。先発・高橋礼(商4・)

今秋は高橋と堀田竜也(経営4・常葉学園菊川高)が先発、リリーフにフル回転して投手陣をけん引。下級生も活躍。角谷幸輝(商2・専大松戸高)は、開幕戦(対東農大)で先発を任せられた。佐藤奨真(経営1・関東第一高)も国士大戦に先発し、6回1失点と好投した。

◇フェンシング部
菊池小巻(商3・翔陽高)ワールドカップ・フランス大会(11月3～5日、サンモル市)

国際大会 出場選手

【合格者】
矢形和也さん(平20商) 久志岡俊海さん(平27商) 岩本一陽さん(平29経営)

春秋連覇ならず 田添が特別賞受賞

秋季関東学生卓球リーグ戦11月7～17日、港区スポーツセンター1号館

春秋連覇を目指した男子は、明大との試合に3-4で敗れるなど5勝2敗の2位で、目標には届きも届かなかった。個人では1年次から主力としてチームの勝利に貢献し、4年間でシングルス通算40勝をあげた田添健汰(商4・希望が丘高)が特別賞を受賞。田添・郡山北斗(経営3・関西高)ペアが2季連続



力強いフォアハンドで得点を狙う田添=9月16日、明大戦

3度目の最優秀ペア賞に選ばれた。特別賞はシングルス通算28勝以上の選手に贈られた。10-10になったセットが4度という大接戦の末、3-2で競り勝ち、武志さん(平28商)以来、通算40勝は専大では歴代最多の数字だ。田添は郡山とのペアでも通算

31勝を挙げており、チームに多くの白星をもたらした。田添はこれまでのリーグ戦の中で印象深い試合として今秋の明大戦、龍崎選手との試合を挙げた。10-10になったセットが4度という大接戦の末、3-2で競り勝ち、武志さん(平28商)以来、通算40勝は専大では歴代最多の数字だ。田添は郡山とのペアでも通算

1部復帰消える
東都大学野球秋季リーグ戦(2部、第6週末)11月6日(10月12日、神宮球場)まで

専大は10月12日(神宮球場)、青学大3回戦に0対5で敗れた。この結果、勝ち点2のまま1部復帰の道が途絶えた。先発・高橋礼(商4・)

【合格者】
矢形和也さん(平20商) 久志岡俊海さん(平27商) 岩本一陽さん(平29経営)

座間天平(文2・船橋芝山高)が、マラソン部門で5位に入賞した。座間は「5位という結果で終えたことは悔しい」と語った一方で、「スプリント勝負の時に

ただでなく、ここぞというときの爆発力も持ち合わせている。郡山とのダブルスも学生界トップで、上位校と争う上で欠かせない存在だった」と女子は春から一つ勝ち星を伸ばして3勝4敗の5位。来年は最高学年となる安藤みなみを中心に王座奪還を目指す。(飛田翼・文3)写真も

専大松戸高)は三回裏、四球を与えた後、センタースタイルのタイムリースリーパーを浴び先制点を許した。さらに、犠飛でこの回2失点。その後、高橋は粘投をみせたが、八回裏に2点を奪われたところで交代。攻撃陣は塁上をにぎわすも、バント失敗や併殺打などで再三の逸機。青学大を上回るヒットを放ちながら、ラナーを迎え入れることができず、高橋の力投に

第6週終了時点で専大は東農大、国士大から勝ち点を挙げ6勝5敗。第7週に勝ち点3で拓大とともに首位に並ぶ駒大対青学大戦が組まれており、専大は最終・第8週(10月23、24日、サテライト)の拓大から勝ち点を奪ってほしい。

関東大学サッカーリーグ戦は第16節を終え、専大は5勝8敗3分の勝ち点18で8位。全日本大学選手権の出場権が得られる6位以内を目指している。11月11日、江戸川区陸上競技場で行われる日本体大戦は集中応援となり、専大生には無料チケットが配布される。スタンドを専修グリーンで染め上げ、選手たちに熱い声援を送ろう。(藤森峻祐・文2)

11/11集中応援日
無料チケット配布
関東大学サッカーリーグ戦(後期)11月16日～11月19日、江戸川区陸上競技場

OB3人が合格
ゴルフプロテスト
日本プロゴルフ協会(PGA)の最終プロテストが9月4日から8日まで、石川県・片山津ゴルフ倶楽部で行われ、ゴルフ部OBの3人が合格した。

チームの6位入賞に貢献。「名譽なことだが、今回は強豪国の参加が少なかったこともある。謙虚に受け止めたい」と冷静に振り返った。(桐生紗希・商1)

専大松戸高)は三回裏、四球を与えた後、センタースタイルのタイムリースリーパーを浴び先制点を許した。さらに、犠飛でこの回2失点。その後、高橋は粘投をみせたが、八回裏に2点を奪われたところで交代。攻撃陣は塁上をにぎわすも、バント失敗や併殺打などで再三の逸機。青学大を上回るヒットを放ちながら、ラナーを迎え入れることができず、高橋の力投に

チームの6位入賞に貢献。「名譽なことだが、今回は強豪国の参加が少なかったこともある。謙虚に受け止めたい」と冷静に振り返った。(桐生紗希・商1)